

## 4000万人の頭痛

83

## 頭痛にまつわる都市伝説

## 第3回 〈群発頭痛はライオン顔?〉

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

患者数は片頭痛よりもはるかに少ないけれど、一度起こると約1カ月間連日連夜、火箸で片目の奥をえぐられるような激しい頭痛が1時間ぐらいい、あたかも群発地震のように続く、こんな頭痛があるのを皆さんご存知でしょうか？

片頭痛と異なり、圧倒的に男性に多く発症し、痛みのあまり転げまわったり、自分の頭を殴ったり、気が狂ったものと勘違いし、そばにいた女性が救急車を呼んで逃げ出してしまったなど、苦い後日談も患者様から耳にしたことがあります。この群発頭痛の患者様は、従来いくつかの特徴があると言われているのですが、その一つに特徴的なライオン様顔貌があげられています。すなわち、眉間の際立った、彫りの深い凛々しい顔貌であり、これは男性のみならず、女性でもどちらかというとも顔が多いともいわれているのです。

顔貌だけで診断できるなら、医師も苦労しないのですが、残念ながら、これといった医学的根拠はあまり無いように思われます。しかしこの群発頭痛と非常に似通った症状をきたす病気に、頭蓋骨の深部にある蝶形骨洞という副鼻腔の炎症と、大脳の中心部に垂れ下

がるように付随している脳下垂体というホルモンの中枢に発生するごく小さな腫瘍があげられます。

現代のようにCTスキャンやMRI検査などがなかった時代では、これらの疾患を正確に鑑別することは不可能であったと想像され、特に深部の副鼻腔が通常よりも大きな人は風邪を引いたりするとこの部位に炎症を起こすことも多く、また発達した副鼻腔のため眉間は前方に押し出され、際立ってみえることが多いのです。

また下垂体腫瘍の中でも成長ホルモン産生腫瘍の患者様は骨や軟部組織が異常に発達し、フランケンシュタインのような眉間が際立ったごつごつした顔貌になることが多いのです。過去には、これらの疾患が群発頭痛と誤って診断されていた可能性があったかもしれません。群発頭痛が男性に多いことから男性ホルモンの関連性について調べた論文も散見されますが、男性ホルモンが優位であったとの結論には達しなかったようです。

顔貌以外にも、性格的に非常にアクティブで仕事も遊びも両立できる、酒豪かつヘビースモーカーが多いとも言われており、特に男性では女性好きが

多いとも言われています。これは群発頭痛発作の最中の異常な脳の興奮性の高さが関係しているのかもしれませんが。ある群発頭痛に悩む有名な野球選手の患者様に診察時、このことをお話ししたところ、「女性好き!?! :ハイ、否定しません」との確証のあるお返事をいただきました。

## Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」(マガジンハウス)をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる 頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」  
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平  
新紀元社 (1,080円(税込))販売中。